ともしび
1994.7
第16号
大学婦人協会東京支部

●記念講演「これからの教育」

国際会議を控えて

東京支部長　松沢美仁子

二十年ぶりに日本で開催されるIFUW国際会議を一年後に控えたこの大変なときに、東京支部長を仰せつかり約一ヶ月が過ぎました。身に余る大役に、大学婦人協会に入会してまだ五年目の私は、日々戸惑いを感じているところです。

『ともしび十一号記念特集号』に寄稿された創立当時の先輩方のお話を拝見しますと、時期的に私の学生時代と重なります。当時、教室には暖房がなく、オーバーを着て講義を聴きました。津田のキャンパスで開催された国際セミナーで出された食事は、ララ物資（アメリカの宗教団体から日本などに送られた貧困救済物資）だと聞きました。現在と異なり、貧しく混乱していたあの時代に初代会長藤田たき先生は、日本の民主化には女性の地位と女子高等教育の向上こそ必要と、JAUWの設立に奔走された動機を書いておられます。そのような諸先輩のご熱意によって創立されたことを思いますと、第二代会長菅支那子先生の「会員は暖かい人間関係を深め、自分の能力と力量に従って会のために協力し、会を推進させる力となる」という会の原点は、今も変わらぬ大切なことと思われます。

来年の国際会議には、先進国の方ばかりでなく、発展途上国、戦乱に巻き込まれた国々からも出席されることでしょう。会議の成功には、東京支部の皆様のご協力が欠かせないものと思われます。また、会議に参加されない方のためにも、支部の行事をご満足いたゞけるよう努力してまいりたいと思います。協会として、また東京支部として、会の目的にそって更に発展するよう、支部会員の皆様のご協力をお願いいたします。

東京支部総会報告

一九九四年東京支部総会は、四月二十三日国立教育会館で開催された。

東京支部会員数六二一名中、出席九七名、委任状提出者三三〇名で会は成立。会計報告、事業報告に続き、大きな議題である支部会費増額が提案された。現行の会費では基本運営費にも満たず、千円値上げすることによって何とか事業がやっていけることが、グラフによって説明され、満場一致で千円の値上げが可決された。

一九九四年度予算案、事業計画発表の後、JAUW青木会長からIFUW国際会議に向けての準備状況の説明と協力についての話、ユニフェム日本代表中村道子さんの話があった。

また、今年度から松沢美仁子さんが新支部長となられ、新支部役員及び、新支部委員の紹介とともに、峯川前支部長より、任期満了の役員と委員を含めての挨拶があり、新しい年度の始まりに期待する雰囲気のうちに閉会された。

記念講演は、前文部大臣森山真弓氏の「これからの教育」をホールいっぱいの会員が拝聴した。

（吉田桂子）

支部総会記念講演
「これからの教育」

講師　森山真弓氏
（参議院議員　元文部大臣）

支部総会後、元文部大臣森山真弓氏は、美しいピンクのスーツ姿でさっそうと熱っぽく話された。

氏が文部大臣に就任し初めて大臣室に入ったとき、まず目についたのが「明治十九年一月　森有礼」と署名された初代文部大臣の「自警」と書かれた額であった。自らを戒めた決意のほどが感じられ、それを見て襟を正す思いだった。先人のおかげで国民の教育が徹底して行われ、世界に比して日本の教育水準は非常に高く評価されるに至った。

就任後最初の記者会見で、真っ先に前任の鳩山氏の業者テストと偏差値の問題を問われ、同じ路線を引き継いでいくと返答した。

業者テストについては、昔は進路を決めるとき、自分の力試しのつもりで受けたものだが、今は学校側がそれを取り入れて実施し、出された偏差値によって生徒を評価し、進路をふり分けることに問題がある。

現在の高等教育については、大学数が増え大学進学率も高く、外国の教育学者によれば高等教育でなく普通教育だと指摘される。このように数は多いが、はたして満足のいく現状であるか。学生も教える側もこれでいいのか、反省の時が来ていると思う。各大学はこれからの学生人口減を見越して、生き残るため、反省、改善が検討されている。

高校では、今まで普通高校と職業高校であったが、平成六年、各県に一つ総合高校を開設し、選択制と単位制でより個人の自由選択ができるようになった。

小学校も将来の生徒数の減少により、きめの細かい、例えばチームティーチング（一クラスを二人で受け持つ。場合によっては二つに分ける）など、ゆとりある指導法を計画している。

最後に、これからの教育は個性化、多様化、国際化になっていくと思うと結ばれた。

本年度のセミナーのテーマが「高等教育と女性ーその社会的還元」であるが、大変示唆に富む有意義なお話であった。

（比留間淑乃）

講演会
「中東諸国の歴史と現状」

エバ・ルテキエヴィッチ氏

去る三月十八日、飯田橋の女性情報センターで、東京支部恒例となった在日外国人による講演会が催された。講師はイスラエル人のエバ・ルテキエヴィッチさんで、演題は「中東諸国の歴史と現状」。

スピーチするより皆と話す方が好きというエバさんの希望で、ご自分の生い立ちとイスラエルの歴史を簡単に語った後、質問に答えながらの座談会となった。気さくで親しみやすい笑顔と、真面目に何にでもとり組もうとする姿勢のエバさんに、集まった人々の間から次々と質問が出た。

質問は、やはり私たちには大変理解しにくいイスラエルの宗教に関することが多かった。エバさんは「私はノン宗教家ですが」とことわりながらも、ユダヤ教の考え方、さまざまな宗派、宗派の違いによる対立、そして、エバさんのような宗教的立場の人は疎まれて住みづらい国内事情などを語った。それでも他国よりイスラエルの方が良いのは、差別がないからだとのこと。新聞や本から得ている「イスラエル建国」や「七十年代の大量移民」の知識が、リアリティーを帯びて再認識される感があった。

イギリス留学中、日本の唐津焼に魅せられ来日して八年になるエバさんは、今まで住んだどの国よりも日本が一番住みよいと言う。差別がないこともさることながら、治安の良さをその理由にあげて、「今、私は東京で四畳半一間に住んでいます。物価高、特に果物の高値はベジタリアンのわたしにはこたえます。しかし、女性が外出して命の危険を感じないですみ、身構える必要がないというのは私にとって最も大切で、住みよいことの第一の条件です」と語った。

私たちと異なった体験から生まれた価値観に触れ、いろいろ考えさせられる講演会だった。

最後に、エバさんが皆さんにイスラエルの国を知ってほしいのでと、大使館から借りてきた観光用ビデオを見た。そこには新聞やテレビのニュース報道には出てこない美しくてのんびりした国「イスラエル」があった。

（溝渕ひろ子）

第35回通常総会に出席して

風光に恵まれた静岡における通常総会は三月三十一日、静岡児童合唱団の美しい歌声が響く懇親会で開幕。

四月一日総会、出席者は国外奨学生ダン・シンシアさんも加え二〇二名。青木会長の司会で報告、審議と議事進行。いよいよ来年に迫ったIFUW国際会議の準備進捗状況について房野LAC委員長より説明があり、また、目標額に達していない会員の募金について一層のご協力をと加藤募金委員長からお願いがあった。

今年度セミナーのテーマは国際大会の専門者会議でのテーマの一つに沿って「高等教育と女性―その社会的還元」とし、向こう三年間にわたるテーマとしたいとのことであった。

十三年間据え置きの会費は、経費の増加、金利の低下が会の事業を圧迫、厳しい状況にある旨説明があり活発な質疑の後、圧倒的多数の賛成を得て二千円の値上げが可決された。

また、中村前会長より平和学研究奨学金基金の募金は間もなく目標額に達する旨うれしいご報告があった。

総会の準備、運営に当たられた静岡支部の皆様の暖かいおもてなしに感謝申し上げます。（斉藤智恵）

駿河路を行く

四月二日、静岡支部主催の静岡、清水市内観光に参加。デラックスバスで日本武尊ゆかりの日本平をへて、ロープウエイで久能山東照宮へ渡る。残念ながら、絶景も霧のなか。家康公の遺命で、元和二年に亡くなるや一夜のうちに当山に葬られ翌年造営された壮麗な権現造りの社に、一同昇殿参拝し終えて外に出ると、輝くばかりの太陽と青い空。社殿裏手の神廟わきの大木には「金の成る木」の由来書き。一九九五年IFUW国際会議を控えたLACのメンバーは、霊験あらたかな権現様にあやからんと明るい展望を祈願する。帰り路、眼下に広がる大海原や日本平から見える富士山に感嘆の声しきり。

安倍川を渡って、昼食は丸子の宿の名物丁字屋のとろろ汁を頂く。麦飯にとろろ、揚げとろろにむかごと、とろろづくし。広間の天井には東海道五十三次宿場の絵皿が見事に並ぶ。

バスは清水港にむかう。足利、徳川氏等の帰依を受けた名刹清見寺を拝観する。古の関所跡、かつて朝鮮通信使の宿にも供された寺と聞く。本堂から清水港越しに見えるのは三保の松原。五百羅漢も裏の庭園も結構なたたずまい。

春うらら、海沿いに久能山麓へ戻って苺狩りを楽しむ。明治時代に始まった石垣苺の栽培は温暖なこの地にふさわしい特産物。甘い香りが満ちたトンネルの中で、ミルク片手に摘みたての苺を味わう。

観光の最終地は登呂遺跡。復元された竪穴式住居や思ったより広い水田跡に、約二千年も前に共同生活を営んでいた弥生時代の人々の暮らしぶりが偲ばれる。傍らに静岡市立芹沢銈介美術館があり、人間国宝の染色家として名高い氏のみずみずしい型絵染の作品や、工芸品のコレクションの数々を見学。やがて静岡駅に到着。お世話くださった静岡支部の方々にお礼をのべて新幹線の車中へ。しばらくすると、左手車窓に西日をあびた富士山が春の暮れには珍しく秀麗な姿をあらわして、この旅の終幕をかざった。（阿南糸代）

婦人の地位委員会へのお誘い

今年も婦人の地位委員会では全国セミナーにむけて研究をいたします。研究に関心をお持ちの方は大歓迎です。ぜひ婦人の地位委員会の会合にお出かけください。

今年から婦人の地位委員会では、婦人の地位に関する基礎データの収集にも積極的にとり組みます。具体的には次のようなことがあります。

一、すでに出版されているデータの収集・研究

二、婦人の地位に関して開催される総理府や労働省などの公聴会などへの参加による公的資料の収集

三、婦人団体連絡会や七婦人団体議会活動連絡会などへの参加の機会を通して女性団体の活動に関する最新情報とデータの収集

また、収集資料の整理にはコンピューターの情報処理技術が必要です。婦人の地位委員会で、皆さんの資料研究や技術的能力を存分に発揮していただくことができたらと願います。ぜひお出かけください。

（婦人の地位委員会、杉森長子）

国立能楽堂公演鑑賞記

五月晴れの五月十四日、新緑の中の国立能楽堂で、大蔵流狂言「富士松」と喜多流の能「籠」を鑑賞した。

この日は普及公演の日に当たり、公演に先だって、松本雍氏に「出で立ちが表現する女」という題でお話を伺った。内田安信氏がご子息をモデルに、唐織着流し、華頭づけの若い女性の姿をデモンストレーションしてくださる。肩幅のがっしりしたモデルの青年が、長い黒髪のかつらをつけ、緋色の唐織を身にまとい、さいごに一礼して若い女性の面をつけた途端、すらりとした、たおやかな女人に変身した。まこと、芸の力、伝統の世界である。下着の色や襟の型、色などで女性の年齢を表し、唐織の格子の色合いなどで身分を表す約束ごとなど伺う。また、唐織のぬぎ下げ（右肩をぬいだ姿）は尋常でない状態を表現しており、ぬぎ下げで笹をもてば狂女の姿となり、恋人をたずね歩く女性や、子どもを探す母の姿などを表すとか。更に上半身をぬいだ「もぎ胴」は、心が裸になることを意味し、「羽衣」の天女や「鉄輪」の妻女がこの姿をしている由。完成された能の様式美や型の中に、どれだけ多くの約束ごとや磨き抜かれた芸が込められているのだろうか。わずか一回のお話を伺っただけでも、その奥深さがしのばれる。

テンポの早い狂言「富士松」で滑稽を楽しんだ後、「籠」を見る。源平一の谷合戦の折、籠に梅の枝をさして戦ったという梶原源太景季の故事である。一時は頼朝の厚い信任を受けながら、後に失脚し、悲運の最期を遂げた景季の無念の思いが伝わってくる。特に前場での地謡は低く嶺々として、笛の音も哀調を帯び、琵琶法師の語る平家物語もかくやと思われた。後場は一転、合戦の場面。唐織のぬぎ下げ姿、籠に梅の枝をさし、唐織の袴をつけた若武者が、白刃を抜き扇をかざして、激しい戦いの模様を再現した。能の演目の中では、勝修羅三番の一つと伺ったが、景季への追悼の思いとともに、日本人の美意識が込められた作品であった。

（平田宏子）

サークルへのお誘い

東京支部では俳句会（第二月曜日午後）読書会（第二火曜日午後）を、いずれも毎月事務所で行っています。その他、次のようなサークルもありますので、お気軽にご参加ください。

①英語講座　比較的やさしいテキストを使って勉強しています。既にアメリカ史、エッセイ二冊、イギリス史の四冊を読了。英語力の不足は想像力と創造力で補い、頭の体操にはもってこいと自画自賛しています。

その間あきれもせずご指導くださいました石塚英子様（会員）にお礼申し上げます。

九月から形式を変えて再開の予定。テキストは『The story of English＝英語百話』。一九八六年英国BBCで一般視聴者向け教養番組として九回シリーズで放映され、好評だったもので、その収集資料をもとに編さんされた本を、更にアラン・ブース氏がアレンジ改訂したものを使います。英語の発達過程と現在の多様な姿、英語民族の移動とともに世界各地に波及し変貌をとげていく様子を、一般教養レベルで興味深くまとめています。

隔週金曜日、飯田橋・女性情報センター、定員十名、講師未定。

②古典講座　平家物語（角川文庫上・下）の下巻へ読み進んでいます。山川正子様（会員）を講師に、お話は平家物語に留まらず、わき道にそれることも多く、それもまた楽しいと好評。

第二・四月曜日午後、文京区汐見会館、千代田線千駄木下車。

③漫歩くらぶ　知られているわりには知らない都内や近郊の名所旧跡を約半日行程で散歩する気楽な会です。サークル会員に登録してくだされば、その都度お知らせします。谷中・佃島・根津界隈・酉の市・江戸東京博物館・王子界隈と古河庭園を訪ねました。

①②③とも詳細は峯川まで。
電話〇三―三六八四―八三〇七

南アフリカ大使公邸訪問

財務委員会主催

五月十三日（金）　マンデラ新大統領誕生というホットニュースに接した直後、麻布の南アフリカ大使公邸を総勢四十名で訪問。政治の話は抜きにして、シャンパンやワイン片手に大使夫人心尽くしのおもてなしを頂き、充ち足りた一日であった。

1993年度大学婦人協会東京支部決算報告

1993年4月1日～1994年3月31日
（単位：円）

収入の部

科目	予算額	決算額	差額	備考
Ⅰ 会費収入	1,100,000	1,276,000	+176,000	2000×638口
Ⅱ 基本財産利息収入	100,000	101,025	+1,025	
Ⅲ 運用財産利息収入	5,000	2,733	−2,267	
Ⅳ 寄付収入	300,000	544,649	+244,649	寄付、参加費、バザー他
Ⅴ 雑収入	20,000	30,000	+10,000	入金還付金400×50支部振興費2500×4
当期収入合計	1,525,000	1,954,407	+429,407	
前期繰越金	1,064,925	1,064,925	0	
収入合計	2,589,925	3,019,332	+429,407	

1994年度予算

1994年4月1日～1995年3月31日
（単位：円）

科目	予算額	備考
Ⅰ 会費収入	1,500,000	3,000×500口
Ⅱ 基本財産利息収入	90,000	
Ⅲ 運用財産利息収入	2,000	
Ⅳ 寄付収入	300,000	寄付、参加費、バザー他
Ⅴ 雑収入	30,000	入金還付金、振興費他
当期収入合計	1,922,000	
前期繰越金	994,601	
収入合計	2,916,601	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	備考	予算額	備考
Ⅰ 管理費	1,090,000	1,053,217	−36,783		1,160,000	
(1) 備品費	80,000	47,041	−32,959		20,000	
(2) 消耗品費	100,000	111,766	+11,766	文具、コピー、振込用紙	120,000	文具、コピー、タックシール、パソコン用紙他
(3) 印刷製本費	35,000	56,080	+21,080	支部お知らせ　他	50,000	支部お知らせ、他
(4) 通信費	300,000	290,050	−9,950	支部お知らせ、本部会報	400,000	支部お知らせ、本部会報
(5) 交通費	75,000	64,880	−10,120		70,000	
(6) 事務所費	100,000	100,000	0	本部へ分担金	100,000	本部へ分担金
(7) 事務手当	400,000	383,400	−16,600	事務員給料一部負担　他	400,000	事務員給料一部負担、他
Ⅱ 運営費	105,000	88,268	−16,732		120,000	
(1) 総会費	55,000	56,185	+1,185	会場費、マイク等、菓子代	60,000	会場費、マイク等、菓子代
(2) 委員会費	50,000	32,083	−17,917		60,000	
Ⅲ 事業費	650,000	633,246	−16,754	ともしび(3回分)講演会他	650,000	ともしび、講演会、他
Ⅳ 予備費	20,000	0	−20,000		20,000	
Ⅴ 基本金積立	200,000	250,000	+50,000	貸付信託	200,000	貸付信託
当期支出合計	2,065,000	2,024,731	−40,269		2,150,000	
次期繰越金	524,925	994,601	+469,676		766,601	
支出合計	2,589,925	3,019,332	+429,407		2,916,601	

1994年3月31日現在

基本金財政状況：基本金　2,772,581　貸付信託　2,772,581—三井信託銀行　新宿西口支店
運用財政状況　：繰越金　994,601　普通預金　911,784—三井信託銀行　新宿西口支店
現　金　82,817

会　計　駒木　三枝子　　高井　敬子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いないことを証明いたします。

1994年4月5日　　会計監査　藤井　賤恵　　金子　京子

「葵祭ツアー」財務委員会主催（五月十五日・十六日参加者四一人）

葵祭が雨で順延になったため忙しい旅行でした。

十五日　京都国立博物館（平安建都千二百年記念特別展「王朝の美」）→伏見稲荷→黄檗山万福寺（昼食＝普茶料理）→東福寺→ホテル。

雨中の移動でしたが、お寺の木々の緑に心が和みました。また、京都支部の方々十一人との夕食会では楽しいひとときが過ごせました。

十六日　黄梅院（大徳寺）→御所（この旅行のハイライト葵祭）→長浜（昼食）→西明寺→彦根城→帰京。

葵祭は凶作の続いた欽明天皇の代に賀茂神の祟りを鎮めるため卯月の吉日に鈴をつけた馬を走らせて祭礼とし、五穀豊饒を祈願したのが始まりという例祭で、宮中、路頭、社頭の三儀式からなり、私たちの見物した路頭の儀は、生の葵の葉をつけた王朝風俗で御所を出、下鴨神社を経て上賀茂神社へ徒歩・牛車・馬で向かう行列のこと。

華やかさと雅やかさに目を奪われたものの、人間の都合で行列に加わり、いやがる馬、立ち往生する馬に同情を禁じ得ませんでした。

はじめまして

先輩のご紹介で参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

石山純子（聖）

先輩のお誘いで委員のメンバーに入れていただきました。何もわかりませんが、ご指導よろしくお願いいたします。

縄田真紀子（奈女）

右も左もわからないまま入会しましたが、奉仕と犠牲の精神で積極的に活動していらっしゃる先輩方からご指導いただき、少しでもお役に立ちたいと思っております。

西尾順子（東女）

この会の発展のため、歴代の委員や会員の方々がご尽力されたお仲間へ入れていただきまして感謝しています。この会の活性化という重要な課題をいただいていますが、何かお手伝いができたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

堀口裕子（実）

人と出会うことは、自己を知ることである。素敵な出会いを求めて成長したいと願っています。

待場田鶴子（大女）

井の中の蛙が少し外の空気にふれたいと思っていたとき、お誘いを受けました。たくさん吸収し成長したいと願っています。

松本佳子（茶）

大学婦人協会の内容もはっきり把握していないような状況ですが、これから少しでも会のお役に立てるよう努力していきたいと存じます。

百束礼子（奈女）

寄贈図書紹介

○合同歌集『窓』土短歌会
短歌出版社
浦和家裁家事調停委員七名の自選作品集
寄贈者　清水瑩子氏（川越見学の案内者）

○句集『山日和』
東京四季出版
俳人協会会員『春燈』同人
柴崎富子著
寄贈者　柴崎富子氏

○『閔妃暗殺』
『悲しみの島サハリン』
新潮社
角田房子著
寄贈者　阿南糸代氏

行事報告・予定

4月23日　東京支部総会、於国立教育会館
5月13日　南アフリカ大使公邸訪問（財務）
5月14日　国立能楽堂　公演　鑑賞
5月15日　葵祭ツアー（財務）
16日
5月25日　第六回漫歩くらぶ
7月1日　講演会「統一なったドイツの現状」小平シュムプ唄氏
7月1日　「ともしび」16号発行
7月6日　谷川岳バスツアー（財務）
10月8日　JAUWセミナー
9日　テーマ「高等教育と女性―その社会的還元」（海外職業訓練協力センター＝OVTA）
10月15日　三越歌舞伎（財務）
10月　寛永寺見学
11月　雅楽講座
1月21日　新春のつどい（本部）

報告

「留学生相談室」「さわやかセンター」へ昨十二月寄付したこと、JAUW平和学研究奨学金基金へ拠出したことを報告します。

訂正

「ともしび十五号」一頁「講演二題」中、「ファッションとしての建築」講師・岡田宏氏は岡本宏氏の誤り、また、三頁「ボランティア活動と高齢社会」三段二行目「有識者及び有識経験者」、五頁〈地方支部より〉十三行目「有識者」はいずれも「有職者」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

編集後記

七人で赤エンピツを手に原稿用紙の山に向かう。ふと高校時代の文芸部の部室を思い出す。昔、えせ文学少女、今もやっぱりえせ編集子か、なんて粋がっている新入りです。（坂）

小学生の時以来何十年ぶりかの編集の仕事だったので、不安がいっぱいでしたが、先輩方の手際の良さにすっかり安心して……。（石）

美しい緑の季節。初めてとり組んだ「ともしび」の編集。先輩方の熱意にふれ、楽しく携わることができました。新米としては次号への良い足がかりになりました。（松）

編集にあたり、「改定現代仮名づかい」をよりどころとしました。（係）

ともしび　十六号　発行日　一九九四年七月一日　発行　大学婦人協会東京支部　ともしび編集部
〒160 新宿区新宿七―十七―十八戸山マンション二四一号　Tel〇三―三二〇二―〇五七二　印刷　タナカ印刷㈱